

令和6年 10月 16日
福祉局認知症支援課

市政記者各位

『認知症の人にもやさしいデザイン』

2024 年度グッドデザイン賞ベスト 100 を受賞

福岡市では、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指し、「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を進めています。取り組みの一つである、「認知症の人にもやさしいデザイン」が、このたび、デザインの手引き策定や施設への導入だけでなく、他の自治体も参照できるよう工夫している点を評価いただき、2024 年度グッドデザイン賞ベスト 100 を受賞しました。

今回の受賞を契機として、市民や民間企業等の皆様へ、広く事業の周知を図り、認知症施策の更なる推進を図ってまいりますので、是非広報へのご協力をよろしくお願いいたします。

認知症の人にもやさしいデザイン とは

記憶障害や理解力・判断力などが低下する認知症の症状を踏まえ、ユニバーサルデザインをベースとし、認知症の人が自分のペースで安心して、自分らしく暮らせるよう、落ち着きがあり、わかりやすい環境を作り出すデザイン。「まち」「モノ」「ひと」を対象に展開。





▲ダウンロードはこちら

まち

モノ

ひと







- 施設やまちづくりに
コントラストの活用や、
サイン・目印を効果的に設置
市内 63 施設導入済
- 福岡オレンジパートナーズ参画
企業と認知症当事者が協働
し、多くの人が使いやすい製品
やサービスを開発
- 認知症フレンドリーセンターを
通じて、認知症の人の活躍の場
の創出や思いを発信するなど
認知症の正しい理解を促進

審査員コメント

認知症には、できることよりもできないことが強調されるようなスティグマがまだ根深くある。しかし実際には、特性を理解し環境を調整することによって、主体的に生きることができる。本プロジェクトは、デザインの手引きを発行し、導入してだけでなく、事例を写真入りで詳細に公開しており、ほかの自治体も参照できるような事例を着実に増やしている点が高く評価された。「認知症フレンドリーセンター」などを通じて、今後さらにソフトの面からも認知症の人とともに生きる街のモデルケースとして日本を先導していくことを期待したい。

【グッドデザイン賞とは】

1957 年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承し、公益財団法人日本デザイン振興会が実施する日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業やデザイナーが参加しています。受賞のシンボルである「G マーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。
<http://www.g-mark.org/>



【問い合わせ先】

福岡市福祉局ユマニチュード推進部認知症支援課
担当 矢野、水浦 TEL 092-711-4790